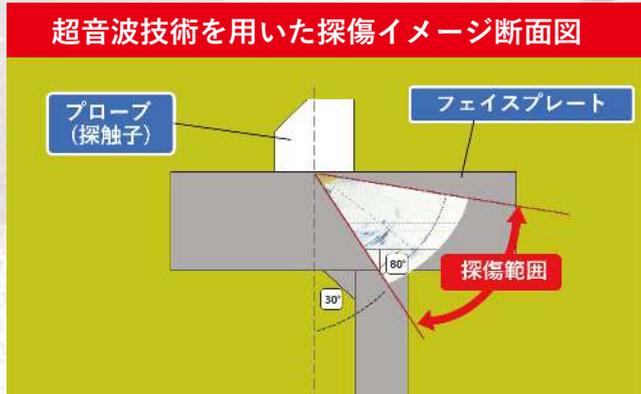


鋼製フィンガージョイント 劣化診断システム

超音波フェーズドアレイ技術を用いて潜在き裂を容易に発見

測定・点検



2軸スキャナーによる安定したデータ収集

調査対象

高強度材料を使用して板厚を抑えた箇所

設計基準改定前に設計・建設された箇所

平成15年(2003年)10月制定
「鋼製フィンガージョイント設計基準」

10月以前
フェイスプレート板厚
基準なし

10月以降
フェイスプレート板厚
100mm未満×

※SM400B,C から高強度の SM520C に変更すると板厚を薄くできるが、作用応力が増加し疲労耐久性が問題となる。このことから板厚は 100mm に固定することが望ましい。(設計要領 第二集 抜粋)



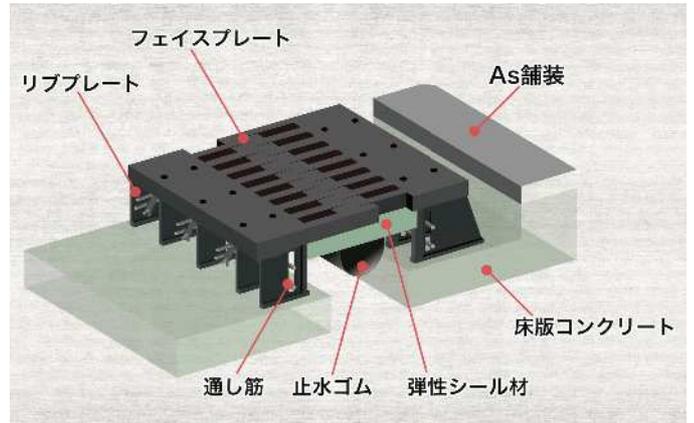
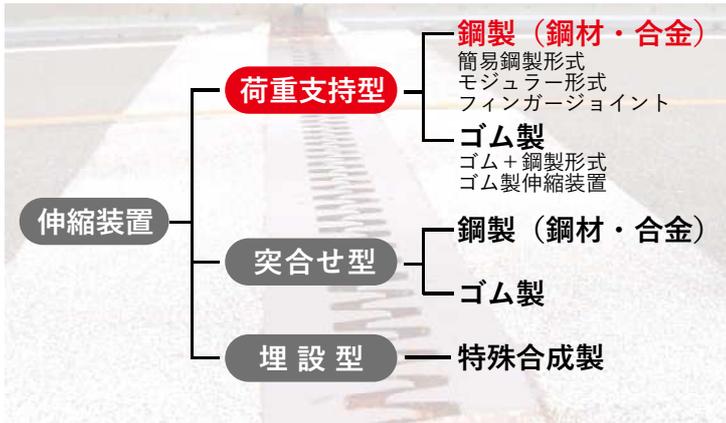
製品一覧

西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社

みち、ひと…未来へ。

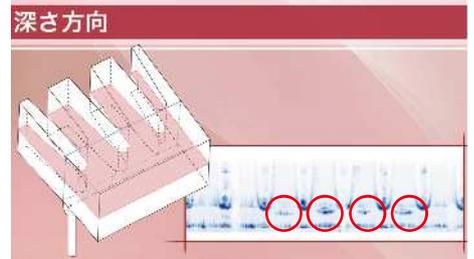
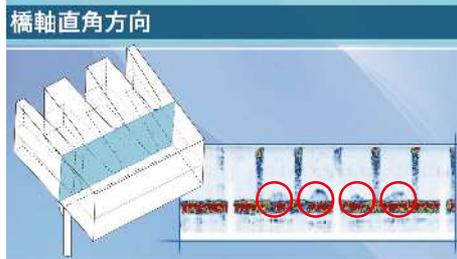
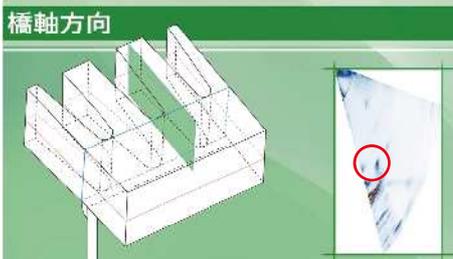


鋼製フィンガージョイントの種類と構造



本システムの特長の種類と構造

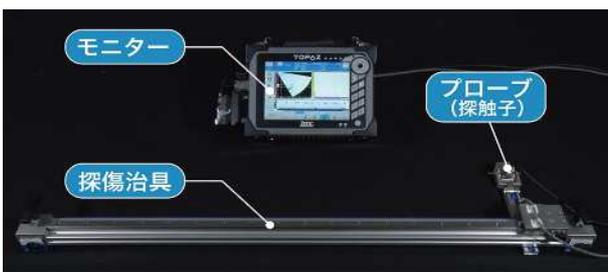
- ・フィンガージョイント内部のき裂状況を可視化
- ・専用ソフトを用いることで、様々な角度から評価が可能



○：損傷箇所

調査方法と構造

①測定機器の準備



②探傷治具をセット、左右へのスライドにより調査



③PCヘータを取込み



④き裂箇所を自動抽出

